



シカゴ日本人学校派遣教員としての3年間
～海外で暮らす日本の子どもたちのために～



塩竈市立第一小学校 教諭 木村 宜智

□■□略歴□■□

2003年～2007年 塩竈市立第二小学校

2007年～2009年 塩竈市立杉の入小学校

2009年～2011年 シカゴ日本人学校

2011年～2017年 塩竈市立杉の入小学校

2017年～ 塩竈市立第一小学校

1 はじめに

「日本人学校で働く」ということ。

この貴重な体験は、現在の私にとって、何事にも代え難い大きな財産となっています。

教師としての仕事を、海外ですることの価値。実際にその国で暮らしてみることで、はじめて感じるができる空気。母国を離れたことで、改めてとらえなおすことができた日本の魅力。

アメリカ・シカゴ日本人学校での3年間の経験の一部を、ここで紹介します。

2 シカゴ日本人学校派遣のきっかけ

2006年3月。塩竈市立第二小学校在勤時のことです。交換留学プログラムの一環から、担任する学年の二人の児童を連れて、アイルランドの小学校を訪問する機会がありました。

アイルランドで暮らす日本人の子どもたちは、教材はもちろん、日本語の教科書すらない環境にもかかわらず、たくましく伸びやかに育っていました。



その一方で、「英語で十分にコミュニケーションがとれないこと」への不満や、「帰国後の日本での教育に順応できるか」という不安を抱えながら生活していることも、肌で感じることができました。

「海外で暮らす日本の子どもたちのために、自分にできることはないか。」そんな思いがわき立ったアイルランド訪問から帰国後、宮城県から日本人学校へ派遣されている教員がいることがわかり、興味をもちました。

そして3年後の2009年。塩竈市立杉の入小学校在勤時、文部科学省からの在外教育施設派遣教員として、シカゴ日本人学校に3年間勤務する機会を与えていただきました。

3 シカゴの概要

シカゴは、ニューヨーク、ロサンゼルスに次ぐ、アメリカ第3の都市。中西部のイリノイ州にあり、人口はおよそ300万人で、中西部最大の都市でもあります。



アメリカのほぼ中央に位置するという地理上の利点から、かつては水路、陸路、現在は空路の要所として繁栄を続けています。街の東側には、アメリカ五大湖の一つであるミシガン湖が広がり、そこから吹き付けられる季節風から、Windy City(風の街)のニックネームがつけられていました。

近代建築の宝庫とも呼ばれ、「街全体がまるでギャラリーのようだ。」と形容されます。これらの建築物見学を目的にシカゴを訪れる人も多い、美しい街です。

4 シカゴ日本人学校の特徴

日本人学校は、世界中に設置されています。しかし北米にある、文部科学省から認定された日本人学校は、シカゴとニューヨーク、ニュージャージーの計3校しかなく、アメリカで暮らす日本人にとって貴重な教育施設となっています。シカゴ日本人学校には、以下の特色があります。

(1) 幼・小・中の積極的な交流・連携

幼稚部(75名)小学部(86名)中学部(28名)の園児、児童・生徒が同じ校舎で学ぶ、施設一体型の連携校です。運動会などの行事も一緒に行います。



また、子どもたちだけでなく、教職員も積極的に交流しています。この教職員は、日本全国の都道府県から派遣された、公立学校の教員が多くを占め、現地で採用された職員と連携しながら、高い教育効果を発揮していました。

普段一緒に仕事をする機会がなかなかない、幼稚部、中学部の先生方との交流は、互いの職業観や教育観を刺激し合える、貴重な体験でした。

(2) 充実した英語教育

標準時数の確保に加え、現地の特色ある教育活動を積極的に取り入れる観点から、小学部1年生から毎日6時間授業となります。なかでも、児童生徒の国際性を豊かにするため、英語教育の充実に力をいれています。小学1年生から週4時間、5・6名程度の、少人数による習熟度別コースで実施されます。

中学1年は週5時間、中学2年・3年では週6時間。中学卒業までに英語検定2級取得を目標としています。教師陣はアメリカ人教師5名と派遣教員で編成されていました。



(3) 魅力あふれる校外学習

現地理解教育として、社会科や総合的な学習の時間の学習内容と合わせ、シカゴの警察、消防署、図書館、ショッピングモール等を見学しました。

小学部6年生の修学旅行の訪問地はワシントンDC。中学部3年生の修学旅行の訪問地は、アメリカの歴史には欠かせないボストンです。2011年度は、上院議員の推薦状をいただき、特別にホワイトハウス内を見学させていただく機会もありました。

5 現地の小学校校視察から考える日本の教育

3年間の派遣期間で、計8校のアメリカの小学校を見学・参観することができました。



「カリキュラムマネジメント」「インクルーシブ教育」「ICT機器の活用」「個に応じた教育」と日本でも喫緊の課題となっているさまざまなキーワードを、日本の小学校と比較しながら改めて考え直すことができました。また、アメリカでは教育にかかる予算が充実し、人的資源が豊富です。学校教育と家庭・社会教育が、適切に役割を分担し、責任の所在も明確でした。日本がアメリカから学ぶべき点多々あります。

一方で、日本の教育の優れている点も再認識することができました。もっとも優れていると感じた点は、「教育における格差が小さい」ということです。アメリカでは、学区ごとに教育レベルが大きく異なり、地域住民の生活水準の高さによって、地域ごとの教育内容に大きな格差が生まれます。裕福な家庭ではより高い教育を受けることができ、貧しい家庭では受ける教育レベルが著しく低い現状です。このことは、教育レベルだけでなく、その後の経済力等にも大きく影響を与え、今後ますます二極化が進むと考えられます。

6 現任校への還元

2017年度から、現任校の塩竈市立第一小学校に赴任しました。144年の歴史と伝統があり、地域や家庭の教育力が高い、すばらしい学校です。

玄関では温かな「ゆるキャラ」も迎えてくれます。誠実で前向きな先生方と、素直で明るい子どもたちを目の前に、毎日新鮮な思いで仕事をしています。



担任は6年生。社会科の学習では、実際に自分が足を運んだニューヨーク国連本部内の様子や、アメリカの生活の魅力について、写真や映像を交えて紹介したいと思っています。同時に、世界の広さや、異文化を認め合うことの重要性についても伝えていきたいです。

7 3年間の派遣を振り返って

これまでの教員生活も、できる限りの努力をして働いてきたつもりでしたが、シカゴ日本人学校で求められる資質と能力は、それ以上のものでした。

一方、終わりのないと言われる教師の仕事の中で、こちらが熱意、誠意、やる気をもって指導にあたれば、それ以上の熱意、誠意、やる気で応えてくれる「子どもたち」と「保護者の方」に、何度も助けられた3年間でもありました。

各都道府県から派遣される先生方は、どの方も非常に優秀です。高い志と教育理念をもち、出身県の代表である責任とプライドを掲げながら全力で教育活動に取り組んでいました。

職員室は、幼・小・中の教員はもちろん、アメリカ人や韓国人、メキシコ人までが同じ部屋で仕事をしていました。いつも笑顔にあふれ、時に熱い議論を交わしながら、「異なる考えや文化を大切にしよう」とする先生方の姿勢は、教師としてはもちろん「人としてのあり方」について、考えさせてもらえる機会となりました。



今後も、アメリカでの貴重な体験と充実した経験を、先生方や子どもたちに伝えながら、「世界で活躍する宮城の子ども」を育てていきたいと思っています。

8 終わりに

宮城県からは、毎年数名の教員が、世界中の日本人学校へと派遣されています。

宮城の先生として一緒に働き、研鑽を積み上げ、海外で暮らす日本の子どものため、さらには宮城県の国際理解教育の推進のために、力を発揮してみませんか？